

月刊

通巻

647

2026年8月



地図と学ぶ

地図中心

特集

政令指定都市&特別区で 山登りしよう！



地図中心 647号 目次【特集 政令指定都市&特別区で山登りしよう！】		
政令指定都市・特別区 基本データ	編集室	2
手稲山、その自然環境とスキー場の立地	高橋 伸幸	3
仙台市街地西郊の山、太白山	大月 義徳	4
あなたの町の富士登山～都内23区・さいたま市・千葉市の富士塚	田中 葉子	6
低山中心！都市と自然のあわいを歩く、神奈川のんびり歩き旅	大内 征	10
静岡市の山	村越 真	14
秋葉山@浜松市	小林 政能	16
みなとまち 日和山 登山	野内 隆裕	17
東谷山	林 上	19
比叡山と大文字山	水野 一晴	20
大阪の港と天保山山岳会	橋本 誠	22
一等三角点がある最も標高が低い山 堺市「蘇鉄山」	大滝 修	23
神戸市民の山、六甲山での山登り	岩田 修二	24
岡山市・大廻小廻山城	坂井 尚登	26
HIROSHIMA TRAIL 2026：107.8km コースの地形図！	田川 宏規	27
北九州市の山 平尾台と貫山	横山 秀司	29
脊振山の地理	松田 倫明	31
熊本市民に親しまれている山 金峰山	横山 秀司	32
政令指定都市と東京都特別区の最高標高	編集室	34

【連載】		
《地図づくり最前線 034》「地理院地図」の中・小縮尺タイルがリニューアル（前編）	片岡 義明	36
《日本百名山が見える鉄道 見えた鉄道 30》中央本線・飯田線・小海線から北岳と間ノ岳	清水 長正	38
《歴史舞台地図追跡 103》江戸・東京をめぐる虚像と実像（其の廿漆）	谷口 榮	40
《地図を片手に大地を駆ける 98》フォンテンブローロゲ	村越 真	42
《地図四方山話 15》国土地理院のすべて・補遺－むかしこんなのもあった課 04	大滝 修	44
《地図心中 復活版 47》絵解き－44 高校生から地図依頼	高橋 美江	46
《地図教育の道具箱 44》地域の危険を地図で見つめ直す－中学生が歩いて考えた「より良い街」－	歌津 文也	48
新刊地形図案内 50 / 今月新刊の見どころ！・日本地図センター便り 51 / 編集後記・次号予告		52

月刊

地図中心

◆「地図中心」は毎月10日発行です◆

1冊 880円 (税込)

地図倶楽部

◆紙版と電子版のご購読会員

年間購読1年間 12冊

プレミアム会員

6,600円 (税・送料込)

プレミアム会員 (シニア) 満65歳以上

5,500円 (税・送料込)

◆電子版のみのご購読会員 (紙版は送付されません)

地図倶楽部会員	会費 (税込)	入会資格
一般会員	5500円	なし
一般会員 (シニア)	4400円	満65歳以上
学生会員	2200円	学生または18歳未満の方

地図倶楽部事務局
map-club@jmc.or.jp 03-3485-5417

《表紙》
写真は、本誌特集の一部を抜粋して転載したもので、縮小・拡大・部分表示をしています。
左上：30ページ (北九州市・四方台) / 左下：32ページ (熊本市・金峰山) / 右上：4ページ (仙台市・太白山) / 右下：15ページ (静岡市・満観峰) / 下段：7ページ (東京都・品川富士)

政令指定都市・特別区 基本データ

都道府県名	市 名	人口 (万人)	面積 (平方 km)	人口密度 (人/平方 km)	区数	政令指定都市・特別区 施行年月日
北海道	札幌市	196.4	1,121.26	1,751.6	10	1972 (昭和 47) 年 4 月 1 日
宮城県	仙台市	109.7	786.38	1,394.9	5	1989 (平成元) 年 4 月 1 日
東京都	(特別区)	995.3	627.51	15,861.4	23	1947 (昭和 22) 年 5 月 3 日
埼玉県	さいたま市	134.5	217.43	6,186.0	10	2003 (平成 15) 年 4 月 1 日
千葉県	千葉市	99.5	271.76	3,661.2	6	1992 (平成 4) 年 4 月 1 日
神奈川県	横浜市	375.5	438.23	8,568.2	18	1956 (昭和 31) 年 9 月 1 日
神奈川県	川崎市	156.1	142.96	10,920.1	7	1972 (昭和 47) 年 4 月 1 日
神奈川県	相模原市	71.2	328.91	2,165.0	3	2010 (平成 22) 年 4 月 1 日
新潟県	新潟市	76.0	726.01	1,046.3	8	2007 (平成 19) 年 4 月 1 日
静岡県	静岡市	66.0	1,411.93	467.2	3	2005 (平成 17) 年 4 月 1 日
静岡県	浜松市	76.6	1,558.11	491.5	3	2007 (平成 19) 年 4 月 1 日
愛知県	名古屋市	234.6	326.45	7,186.1	16	1956 (昭和 31) 年 9 月 1 日
京都府	京都市	143.2	827.83	1,729.5	11	1956 (昭和 31) 年 9 月 1 日
大阪府	大阪市	280.9	225.34	12,463.9	24	1956 (昭和 31) 年 9 月 1 日
大阪府	堺市	80.3	149.83	5,361.6	7	2006 (平成 18) 年 4 月 1 日
兵庫県	神戸市	149.8	556.93	2,689.1	9	1956 (昭和 31) 年 9 月 1 日
岡山県	岡山市	70.8	789.95	896.2	4	2009 (平成 21) 年 4 月 1 日
広島県	広島市	117.2	906.69	1,293.1	8	1980 (昭和 55) 年 4 月 1 日
福岡県	北九州市	90.4	492.30	1,836.9	7	1963 (昭和 38) 年 4 月 1 日
福岡県	福岡市	166.4	343.47	4,844.4	7	1972 (昭和 47) 年 4 月 1 日
熊本県	熊本市	73.1	390.44	1,871.9	5	2012 (平成 24) 年 4 月 1 日

人口は、2025 年 10 月 1 日時点。総務省統計局「令和 7 年国勢調査人口速報集計結果」による。
面積は、2026 年 4 月 1 日時点。国土地理院「令和 8 年全国都道府県市区町村別面積調（4 月 1 日時点）」による。
区数は、2026 年 7 月時点の政令指定都市の行政区、および東京都特別区の数を示す。
施行年月日のうち、特別区は地方自治法による施行日を示す。



手稲山、その自然環境とスキー場の立地

たかはし のぶゆき
高橋 伸幸

ていねやま
手稲山（標高 1023m）は、札幌中心部市街地の西側に位置する（図1）。このことが、札幌の街の冬季気候環境に影響を及ぼしている。冬になると西寄りの季節風が卓越し、手稲山塊の存在がこの季節風に対する衝立となり、札幌中心部への雪雲の侵入を妨げ、この付近の積雪量を低下させている。ちなみに、降雪量の平年値を、季節風の影響を受けやすい岩見沢（711cm）と比較した場合、札幌（487cm）では200cm以上も少ない。写真1は、季節風によりもたらされた雪雲が石狩低地帯に流れ込んでいる様子であるが、札幌の市街地は晴天に恵まれている。豊平川により形成された扇状地という比較的安定した地盤条件と恵まれた水利条件、そして冬の降雪量の緩和をもたらす手稲山塊の存在という自然条件が、かつての開拓使札幌本庁（現在の北海道庁）を中心とする札幌の街の発展に大きく寄与したことは間違いないであろう。

一方、豊富な積雪に恵まれた手稲山は、札幌近郊の代表的なスキー場（サッポロテイネスキー場）となり（図2）、札幌市民をはじめとする多くのスキーヤーに親しまれてきた。この手稲山のスキー場が一躍全国に知れ渡ったきっかけは、1972年に日本で初めての冬季オリンピックが札幌で開催されたことによる。手稲山でもスキーなどの競技が行われた。オリンピック終了後は、オリンピック選手が滑ったスキーコースを私たちも滑ることができる。スキー場からの眺めも素晴らしく、晴れた日には、石狩平野から石狩湾を一望のもとに見渡すことができる。

ところで、手稲山北斜面は地すべりによって作られた地形であり（図1）、この地すべり地形を利用してサッポロテイネスキー場が立地している。この

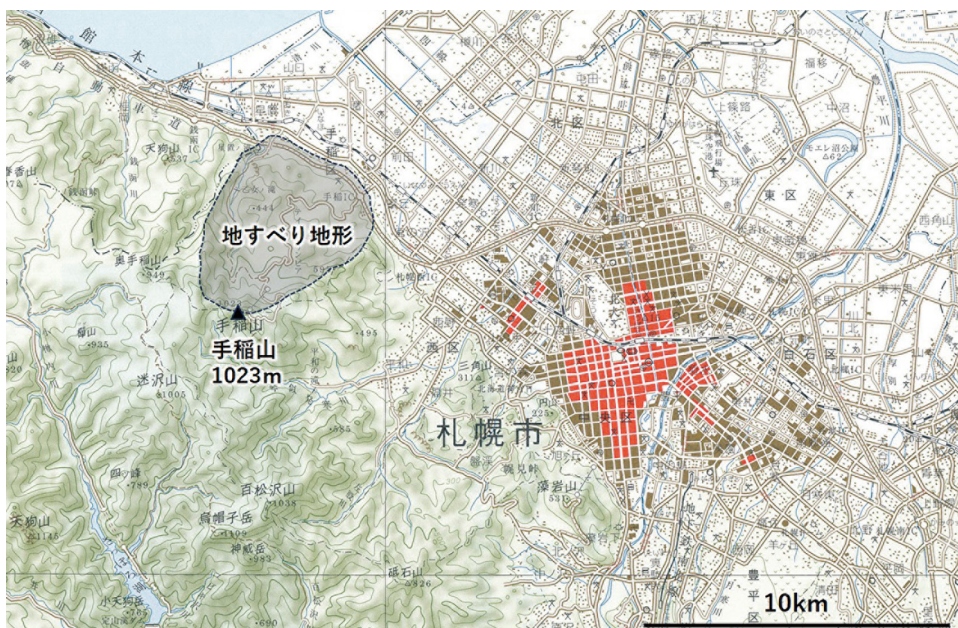


図1 位置図（20万分1地勢図「札幌」平成24年要部修正を一部改変）

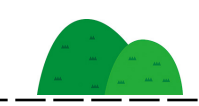


スキー場以外にも、定山溪の札幌国際スキー場や小樽のキロロスキー場なども地すべり地形上に立地している。地すべり地形内には滑落崖の急斜面から滑落土塊上の緩斜面まで変化に富んだ斜面があり、上級者から初・中級者に対応したコースを設定する上で、地すべり地形は都合が良いのであろう。

手稲山は、5万分1地質図幅「銭函」および説明書（杉本、



図2 手稲山周辺の地形と平和の滝からの登山道（赤い破線）（5万分1地形図「手稲山」平成18年更新を一部改変）



あなたの町の富士登山

～都内23区・さいたま市・千葉市の富士塚

たなか ようこ
田中 葉子

はじめに

富士山はお好きですか？

私は、町中でビルやマンションの間から、あるいは川を渡る電車の窓から、富士山が見えると「お！見えた！」と、なんだかちょっと得したような、「いいもの見た」という気持ちになります。いまから200年前の江戸っ子たちも同じだったようで、葛飾北斎と歌川広重が描いた、様々な景観のなかで表情を変える富士山の錦絵は大人気でした。

現在も使われる「〇〇富士」という呼び方にも、日本人の富士山愛がうかがえます。この呼び方、ひとつには円錐形のシルエットの山を富士山に見立てたもので、群馬県の「榛名富士」(榛名山)や、北海道の「利尻富士」(利尻山)など、300ヶ所を超える「〇〇富士」があるそうです。静岡県公式ウェブサイトでは全国の「ふるさと富士」を紹介しています。

「〇〇富士」という呼び方にはもう一パターンあり、それが富士塚の呼び名です。「駒込富士」といえば、東京都文京区の駒込富士神社の富士塚のこと。本物の富士山登山は大変ですが、「〇〇富士」なら私も登れるかも？

都内23区・さいたま市・千葉市にある、登れる富士塚をご紹介します。

1. 富士塚とは

【富士山信仰と富士講】

活火山として山頂から煙をあげ、時には噴火する荒ぶる山だった富士山。古代の人々は富士山自体を神として畏怖し、遠くから富士山を拝み、遙拝所に浅間社を祀った富士見塚を作りました。平安時代後半には、修行者たちが富士山に入るようになります。修行者の^{かくぎょうとうかく}畫行東覚は、富士山

麓^{ひとあな}の人穴(静岡県富士宮市)で角材の上に千日間爪立ちする苦行を行い、江戸時代初めに流行病を呪符で治したと伝わります。

畫行^{じきぎょうみろく}の弟子筋の食行身禄は、日常生活を大切にすることを説き、享保18年(1733)に富士山の七合五勺^{しやく}にある烏帽子岩で31日間の断食を行って亡くなります。その後、身禄の弟子たちによって、急速に富士講が広まりました。

講とは、信仰や経済的目的などによる人々の集まりで、富士講の場合は、講のメンバーでお金を出し合い、くじに当たった代表者が富士山に登る、代参講の一種です。当時の富士登山は、江戸からの往復で半月からひと月はかかり、登山自体も危険を伴うものでした。経済的にも身体的にも大変な富士登山を無事に行うために、富士講という集団を作って取り組んだのです。

【富士塚】

身禄の弟子であった庭師の高田藤四郎は、身禄三十三回忌の明和2年(1765)に富士山の「うつし」、つまり富士山を模したものを築くことを発願し、安永8年(1779)に高田水稻荷境内(東京都新宿区西早稲田1丁目。昭和40年[1965]に西早稲田3丁目に移築)に完成させました。小山を築き(同地にあった古墳を利用したと考えられています)、富士山を模して表面に溶岩や黒

ボクを配し、身禄が断食入定した地を示す烏帽子岩の碑を置いたものでした(図1・図2・図3)。

関東では、室町時代から富士見山や富士見塚が造られてきましたが、以後、藤四郎の高田富士をまねて多くの富士講が富士塚を築くようになります。人工富士山が続々と誕生したのです。

当時、江戸からの富士登山は、吉田口登山道、現在の山梨県富士吉田市の北口本宮富士浅間神社から登るルートが中心でした。そこで、富士塚には吉田口ルート、つまり富士山の北面で確認できる信仰スポットが多数設置されました(図4)。なかでも、富士山五合目^{こみたけ}にある小御嶽・七合五勺の烏帽子岩・山頂の奥宮を備えた塚が多く、それに加えて、五合目の御中道^{おちゅうどう}・七合目の亀岩・人穴や胎内・登山路の合目石を置き、溶岩や黒ボクで塚を覆うなど、塚ごとに個性が見られます。富士塚の平面図をみながら、ジグザグと折り返しつつ小御嶽、烏帽子岩などをたどる登山をイメージするのも面白いものです。

江戸っ子たちは、5月晦日・6月朔日には各地の富士塚を詣でました。富士山の山開き(吉田口登山道の開山)にあたる日です。現在でも6月30日・7月1日に山開き行事を行う富士塚が多く、この日限定で登ることができる富士塚もあります。

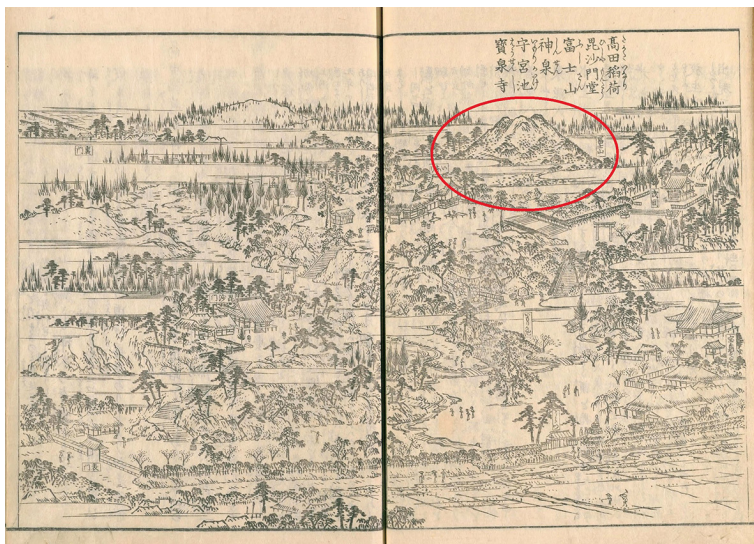


図1 『江戸名所図会』に描かれた高田の富士塚(国立国会図書館デジタルコレクション)



図2 現在の高田富士入り口



図3 高田富士の烏帽子岩



一等三角点がある最も標高が低い山 堺市「蘇鉄山」

おたき おさむ
大滝 修

南海電鉄南海本線・堺駅の西方約550mにある大浜公園は、1879(明治12)年にお台場(砲台)が築かれていた場所を公園として整備したもので、蘇鉄山は、その中に作られた人工の山である。一等三角点「大浜公園」はその山頂にある(図1・2)。

図3は、明治30年代の陸地測量部による「一等三角鎖及網一覧図」の一部である。兵庫県神戸市「六甲山」、奈良県御所市「金剛山」、大阪府岬町「祖石山」の一等三角点本点(平均距離45km)の間に、一等三角点補点(平

均距離25km)として設置されている赤丸が一等三角点「御蔭山」である。明治42年測図の2万分1正式図には御蔭山に三角点(標高14.3m)がある(図4)。

この「御蔭山」からは、「六甲山」・「祖石山」の他に南の「葛城山」、北東の「天守台」(現在は廃点)、「生駒山」(いずれも図3の赤丸)の5方向を観測した(図5)。

江戸時代後期1838(天保8)年頃の築山である御蔭山は、明治時代になってからの開発によって切り崩されてきたため、三角点は1939(昭和14)年に北西約300mの蘇鉄山に移転され一等三角点「大浜公園」となった。現在の三角点標石は1948(昭和23)年に埋標されたもの。この「大浜公園」の2025年4月現在の標高は6.90mで、一等三角点のある山としては最も標高が低い。近隣の「堺のお伊勢さん」こと神明神社内には蘇鉄山山岳会があり、登山証明書を発行している(図6・7)。

ちなみに三角点は平地にも数多くあり、「最も標高が低い一等三角点」は北海道別海町・野付半島にある「野付崎」標高1.58mである(図8)。

地理院地図には大浜公園内に1854(嘉永7)年の安政南海地震の津波の自然災害伝承碑「擁護壘」がある(図1・9)。この碑は1895(明治28)年に御蔭山からこの地に移設されたものであり、堺市で地震・津波の様子を詳しく記した石碑としては唯一のものである。三角点と一緒に見学することをお勧めする。

〈参考資料〉
地図と測量の科学館ウェブサイト
https://www.gsi.go.jp/MUSEUM/SOUGO/kohokocho2021_00003.html
堺市ウェブサイト
<https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/rekishibunkazai/bunkazai/shokai/bunya/rekishi/yougoji.html>



図1 蘇鉄山とその周辺(地理院地図)



図2 三角点

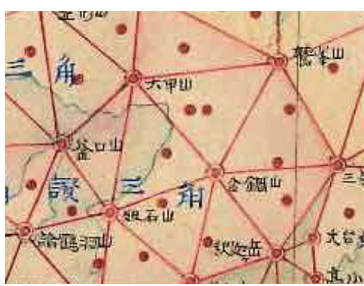


図3 明治30年代の一等三角鎖及網一覧図(国土地理院資料)

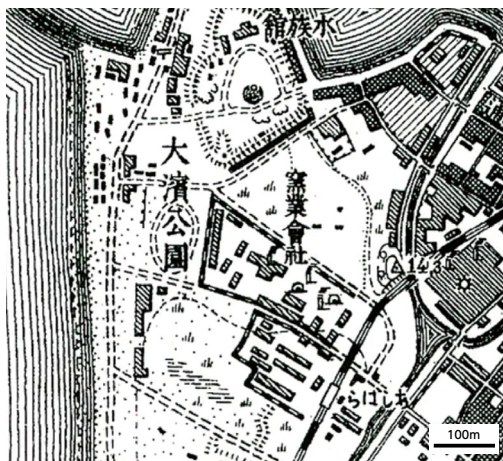


図4 明治42年測図2万分1正式図「堺」(「関西時層地図」より)

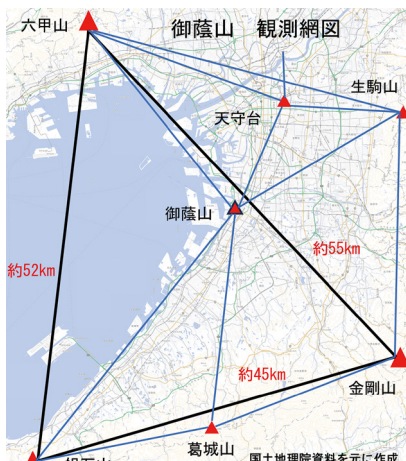


図5 御蔭山観測網図(背景:地理院地図)



図6 蘇鉄山登山口

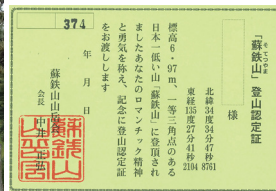


図7 蘇鉄山登山認定書



図8 最も標高が低い一等三角点「野付崎」(地理院地図に加筆、三角点の記号を強調)

擁護壘(ようごい)(安政南海地震)	
概要	
地名	擁護壘(ようごい)(安政南海地震記念碑)
災害名	安政南海地震(1854年11月5日(旧暦))
災害種別	地震・津波
建立年	江戸時代
所在地	大阪府堺市堺区大浜北町4丁3-50
伝承内容	嘉永7年(1854)11月5日(旧暦)の安政南海地震後に発生した津波が川を逆流し、堺でも8つの橋が落ち船が割れるなどの被害を受けた。しかし、住民は神社の広い境内に避難するなどして怪我をした人もいなかった。並永地蔵(1707)では船に避難して命を落とした人も多し。地震が強いときは決して船に避難してはいけぬ。(現在地へは1895年に移設)

図9 自然災害伝承碑「擁護壘」(地理院地図)

大滝 修



(一財)日本地図センター。元・国土地理院。正確な緯度・経度・標高を求めるために「南鳥島」「沖ノ鳥島」「昭和基地」のある東オングル島の3島を制覇した数少ない人類。

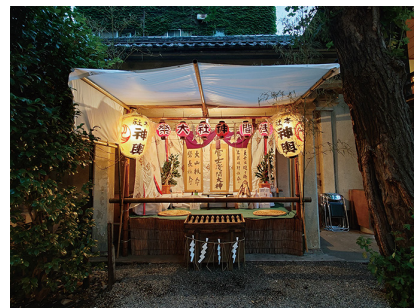
編集後記

ミニチュア富士山・富士塚には、普段は立ち入りできない山も多くありますが、山開き期間限定で登拝できる富士塚もあります。本号の編集が、ちょうど山開き時期。この機会に、期間限定の3座を巡ってみました。

いずれの富士塚にも、多くの方がご登拝に。高さは8~5mほどなのですが、山頂部に立つと意外と高く感じます。足元もなかなか不安定で、ちょっとスリリングな山開き登山でした。(編集長・小林政能)



下谷坂本富士 (小野照崎神社内)



下谷坂本富士、浅間神社仮社



池袋富士塚 (池袋氷川神社内)
富士講社碑がたくさん



池袋富士塚、山頂部の
「浅間大神」の碑



江古田の富士塚
(江古田浅間神社内)



江古田の富士塚で、食行身禄像
(1831[天保2]年)が93年ぶり公開

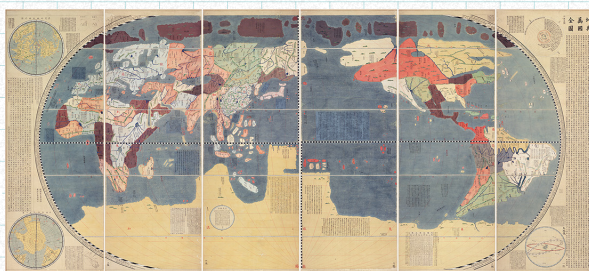
次号予告 2026 年 9 月 通巻 648 号

毎月 10 日 発行

地図と学ぶ月刊

地図中心 総特集 こんよ 坤輿万国全図ってなんだ!?

坤輿万国全図は、マテオ・リッチ (利瑪竇) らが、中国・明朝で、1602 年に刊行した大型世界図。日本にも 17 世紀初めに伝わっています。太平洋が中央に描かれたデザインの世界図の先駆けの坤輿万国全図。細かく書き込まれた地名や注釈にも注目して、詳解いたします!



バックナンバーのご案内

地図中心

検索

「地図倶楽部」へのご入会をお待ちしています! 03-3485-5417 (事務局)

地図中心

2026 - 8 通巻 647 号

発行 2026 年 8 月 10 日

発行所 一般財団法人日本地図センター

〒153-8522

東京都目黒区青葉台 4-9-6

電話 03-3485-8125

FAX 03-3485-5593

(月刊「地図中心」編集室)

メール chushin@jmc.or.jp

URL https://www.jmc.or.jp

©一般財団法人日本地図センター

定価 880 円 (税込)

印刷所 昭栄印刷株式会社

地図と学ぶ月刊誌



本誌の一部あるいは全部を無断で複写・複製・転載することは、法律で認められた場合を除き、禁じられています。

発行 一般財団法人日本地図センター 定価 880 円 (税込)

雑誌 86689-08



4912866890861
00800